

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>本校は「地元扎根し、人権教育を行う学校を」という、地域の熱い要望により設立された。その経緯と伝統を大切に継承し、創立以来の人権教育を軸とした教育実践の充実をはかり、今後も柴島高校人権教育の更なる発展をめざす。そのため、全ての生徒のニーズに応えられる学校づくりをめざし、生徒一人ひとりの個性の伸長と持てる力を最大限に伸ばし、自己実現に向けて大きな展望のもてる「確かな学力と生きる力」を身につけることができる総合学科づくりを行う。</p> <p>合わせて、障がいの有無や様々な立場の人が、互いに違いを認め合いながら、共に生き生きと充実して暮らすことのできる人権が尊重された共生社会の実現に資する生徒が育つ学校を創造する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒一人ひとりがそれぞれの個性を生かし、主体的に学習に取り組み、学ぶことの楽しさや成就感を感じる中で、知識・技能を獲得し、思考・判断・表現できる力をつけ、さらに主体性・多様性・協働性を発揮できる資質・能力を身につけることのできる学校 2 自己探求と社会参加への自覚を深める取組みを通じて、自己実現に向けた進路を切り拓ける学校 3 活発な特別活動を通して豊かな心と健康な身体を育てる学校 4 一人ひとりが活躍し、学びを得ることによって、社会の多様性推進に貢献できる生徒が育つ学校 5 家庭との連携を深めるとともに、生徒一人ひとりが地域や社会の人々と関る中で、豊かな人間性と市民性を育てる学校
--

2 中期的目標

<p>1 主体的な学習に向けた授業改善の推進</p> <p>(1) 「協働」をモチーフに授業改善をさらにすすめ、主体的に学ぶ力(生徒自らが考え、理解し、次に学びたいことを見つけ出し、いける力)を育成する。</p> <p>ア 学力育成部を核として学習力向上に向けた新たな授業形態への改善をはかる。</p> <p>イ 学習者の視点に立った、教材の研究・開発する。</p> <p>ウ 学習方法や方略を獲得させ、生活習慣を見直すことで、学習行動を促しその習慣化を図る。</p> <p>エ 視聴覚機器を積極的に整備し生徒の発表する場面を増やす。そのことにより表現力を育成し主体的な学びの姿勢を強化する。(授業アンケートで検証)</p> <p>オ 評価を工夫・改善することで授業の形態を改善し、生徒の主体的な学びを促進する。校内でそのための議論を深める。</p> <p>(2) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりを推進する。</p> <p>ア 全教職員で全ての生徒がわかりやすい授業づくりに取り組む。</p> <p>イ 電子黒板やプロジェクターなどの視聴覚機器を充実させることで視覚による情報を増やし、理解を促進させる。(研修を実施する)</p> <p>2 キャリア教育・人権教育の推進</p> <p>(1) 3年間を見通したコアカリキュラムの充実を図る。</p> <p>ア 「産業社会と人間」や「総合的な学習・探究の時間」、特別教育活動を通じて、自己の探求と、他者とのつながり、自分と社会のつながりを理解させ、夢と志を持った進路選択と自己実現が図れるよう支援する。</p> <p>イ 生徒会活動を通して、学校生活における様々な課題を発見し、自他の個性を活かし、協働して課題克服に取り組む体験を通じて市民性が育つよう支援する。</p> <p>(2) データを科学的に分析し、その結果に基づいた科目選択・進路選択を積極的に進める。(目標値：希望進路達成率 95%以上を維持する)</p> <p>(3) 社会参加を促す体制作りを確立する。</p> <p>ア 地域連携型授業並びに特別教育活動を通じて、生徒が、地域社会に直接アクセスすることや、地域の方が「ななめの関係」としての支援者となっていただくことができるように地域連携部を核として連携体制の整備をすすめる。</p> <p>イ 地域活動協議会への参加を通じて、地域と連携し、教育的・社会的資源として貢献できる学校づくりをすすめる。</p> <p>3 安全安心で魅力ある学校づくり</p> <p>(1) 安全で安心な学校づくり共同研究校として、人権教育推進委員会を中心として、調査・研究をすすめ「世代を超えた通わせたい学校」の創出につとめる。</p> <p>(2) 支援教育サポート校として、研究をすすめ、「ともに学び、ともに育つ教育」についての公開授業、巡回相談を実施する。</p> <p>ア アセスメントに基づく個別の教育支援計画の作成と教育実践についての研究を促進する。</p> <p>(3) 通級指導教室設置校として生徒・保護者のニーズに応え、授業の充実、学校全体の環境整備を図る。</p> <p>4 ICTを活用した校務の効率化</p> <p>統合学校ICTネットワークの活用と、校内イントラネットの整備・総合をすすめる中で、業務の精選と効率化を図り、生徒と触れ合う時間の確保に努める。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【全体】 本校に来てよかったと肯定的に考えている生徒は昨年度よりやや増えているが、一昨年と比較すると約 10%減少している。本校の「自分を語る取り組み」や「社会人基礎力をつける学び」「多様性を認め、共生社会を目指す取り組み」等がほかにはない特色であるが、それについて意識はできているが、自分の将来に役に立つと考えている生徒がやや少ないのが残念である。本校で学んだ力を、社会でも自信をもって活用してほしい。 *「柴島高校に来て(行かせて)よかった」生徒：75.6%《H30：70.9% , H29：85.3%》保護者：92.9%《H30：90.1%》 *「他の学校にない特色がある」生徒：91.5%《H30：92.7%》 教職員：94.9%《H30：92.3%》 *「取り組みは自分の(生徒の)将来に役に立つ」生徒：78.0%《H30：76.3%》教職員：76.9%《H30：81.5%》</p> <p>【学習指導等】 全般的に昨年度と同じ傾向が出ているが、学校全体で取り組んでいる「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)により「学習する意欲がわく」とした生徒は一昨年より -21.4% であった。(生徒 一昨年 90.1% 昨年度 67.6% 今年度 68.7% 教職員 89.7%) 教員が力を</p>	<p>第1回 6/13(木)18:30~20:35 令和元年度柴島高校学校経営計画について ・総合発表会は授業を中心とし先生方が企画したものに ・アミティエに新しいスタッフ ・HPの見直しを検討 定員割れはショックを受けている。文部科学省やOECDの3つのキーコンピテンシーを強く打ち出し、中学校や中学生、その保護者にも広報をしないといけない。 令和元年度人権教育推進委員会方針 ・基本は変えていないが、希望をもって「社会人基礎力」として用語の使い方を変えた。 ・誰も切らない形での生徒への対応。自分を伸ばす可能性を伝える。 ・自分たちのことを自分で決める意義を伝えていく。自分たち(生徒)で生活指導のルールを考える力を付けたい。</p> <p>第2回 11/12(水)14:00~17:10 委員の授業見学 6限目 ・少人数のグループワークで国立公園を調べたり、防災学の座学など深い学びがあり、アミティエの生徒にも声をかけ、頑張っている姿もよかった。 ・自分が学びたいと思って授業を受けると一生懸命になるが、座学になると集中できていない子供がいた。選択した意味や、今しか学べないということなどが分かればよいのだが。また、1年生とか2年生から次の世代につなげるようなものがあれば。</p>

府立柴島高等学校

<p>入れている割に、生徒が乗ってきていない。コアカリキュラムを中心に校内全体での授業の活性化と高い市民性をつける学びをめざしていきたい。 *「主体的・対話的で深い学び」： 68.7%《H30：67.6%》「論理的思考力・表現力」： 68.4%《H30：63.2%》</p> <p>【生活指導等】 「自立・自律の意識の育成」を心がけて学校として取り組んできたが、昨年度より肯定的な意見がやや上がっている。コアカリキュラム等の授業だけでなく、行事やクラスでの取り組み、日常の生活の中で、生徒一人ひとりが主体的に判断し行動する意識の高まりをつくる仕組みを作っていく。*「自立」：78.5%《H30：73.2%》、「自律」70.6%《H30：67.3%》</p> <p>【人権教育】 「ともに学び、ともに育つ教育」の肯定的意見は、昨年度よりは下がっているものの、一定の成果を挙げている。多様性を尊重し、異なる考えの人とも協働できる態度の育成についてはコアカリキュラム以外でも生徒会行事やクラス運営においても進めている。 *「共生社会に向けての努力」81.2%《H30：86.3%》、「他者との協働」生徒：75.2%《H30：72.9%》 教職員：84.6%《H30：89.2%》</p>	<p>通級指導教室について ・自立活動。校内では「ライフスキルトレーニング」。社会の出口で、社会にヘルプが出来るように、外とつなぐ意識で取り組む。 ・基本は1対1で、相手の事と自分の事を考えさせる。 学校経営計画の進捗状況 ・好きなものを目の前に積み上げて、いつのまにか、それが増えていくような、そういうキャリア教育、進路開拓が大事。</p> <p>第3回 2/4(火)18:00~20:00 ○学校教育自己診断アンケートの結果より ・学校での自律心の育成に係って...校則と規律について、一人一人に対する指導は議論しないとイケない。今は価値観の多様性が認められる。ぶつかり合って最後は何か解決策をみんなで決めていく。生徒会などいるんなところで議論と対話が必要。生徒と先生がもっと対話することによって生徒にも自分の考え方ができてくる。 ・授業の目的などを言語化して、この授業として何を求めているのかを分からせる。一定到達できなかったら、妥協せず単位として認定できないように。高校は指導により生徒の能力を育てる。アウトプットで判断できるようになればよい。 ○柴島高校学校経営計画の達成状況 ・情報を読みといて、アクティブラーニングができるようになるには、普通の基礎学力が必要。コンセンサスを得る基礎として、情報処理能力がなくても取り組めるものがある。トータルコミュニケーションに取り組んでいる。 ○各分掌総括 ○令和2年度柴島高校学校経営計画(案) ・すべての生徒のニーズ 教育権の保障 に変更した。 ・5つの柱 4つの柱 ・総合発表会は無くなったので、オープンスクール、授業発表会、卒業発表を活用して発表の機会を作る。 ・リーディングスキルテストを1・2年生に行う</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的 な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 主体的な学習に向けた授業改善の推進	(1) 生徒の発表の場・機会を増やし表現力を高めるとともに互いの違いを学ぶ。	(1) 総合文化発表会を生徒の「柴島の学び」の発表の機会として、学校内外に発信する。	(1) 中学生と保護者の観覧者数 100名 (H30は81名)	(1) 9/28(土)に昨年より授業発表会の要素を強くした「柴島高校総合発表会」をザ・シンフォニーホールで実施した。中学生は19名でその保護者は約13名と少なかったが、本校生の保護者は210名の参加があった。どの発表も完成度が高く、「柴島の学び」をアピールすることができた。()
	(2) 授業力向上を図るため教科での授業のアクティブラーニング化を進める。	(2) ア)アクティブラーニングの視点から生徒が自ら課題を発見し、考え、発表する研究授業と研究協議を初任者と10年経験者を中心に行う。 イ)「視覚化・協働化」をキーワードにした授業改善の推進を図るための研修と相互の公開授業を継続的に実施する。(研修2回/年、公開授業2回/年)	(2) 学校教育自己診断 ・「アクティブ・ラーニング」の項目 肯定的率 70% (H30は67.6%) ・「自主的学習」の項目 肯定的率 60% (H30は43.7%)	(2) ア) 初任者、10年経験者研修対象者以外にも各教科から1名ずつの研究授業を行い、研究協議を実施し、授業を改善していくきっかけとなった。(学校教育自己診断(生徒)「アクティブ・ラーニング」の項目 68.7%《H30:67.6%》とほぼ変化なし)() イ)8月下旬と12月中旬に、保護者向けの授業公開期間を設け、教員の相互授業見学も呼びかけた。(学校教育自己診断(生徒)「自主的学習」の項目 44.5%《H30:43.7%》)()
2 キャリア教育・人権教育の推進	(3) 電子黒板を活用した教材開発を進める。	(3) 視聴覚機器をさらに活用し表現力の育成を図るための研修会を実施する。	(3) 学校教育自己診断 「ICT機器・視聴覚機器」の項目の肯定率 80% (H30は77.0%)	(3) ・11月下旬にPJ、7/7(土)講習会を実施(学校教育自己診断(教職員)「ICT機器・視聴覚機器」の項目 94.9%《H30:90.8%》)()
	(4) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりを推進する。	(4) ア)ユニバーサルデザイン化をキーワードに各教室に整備されたプロジェクターを活用した視覚による理解を図る授業を促進する。 イ)通級指導教室の取り組みの広がりを求め、すべての生徒にとって、よりわかりやすい授業作りの意識を高める。	(4) ア)PJ使用に係る研修の実施。 イ)通級指導教室に係る研修の実施。	(4) ア)11/28(木)実施() イ)新しく担当となった教科の先生に対し、事例検討会として、当該生徒の見立てや指導方法について、学識者も交えて細かく実施して取り組んだ。()
	(1) コアカリキュラムのさらなる充実、効率化を図り次世代を担う「生きる力」の育成を図る。	(1) コアカリキュラムの活用でコミュニケーション能力をはじめ、論理的思考力・判断力・表現力の育成に継続して取り組む。	(1) 学校教育自己診断 「探求力」の項目の肯定率 75% (H30は72.8%) ・「論理的思考力・表現力」の項目の肯定率 65% (H30は63.2%)	(1) 論理的思考力・判断力・表現力の育成に継続して取り組んだ。特に3年生のコアカリキュラム「卒業研究」は非常に充実した内容であった。他の科目も自ら探求する内容を工夫し、より一層、思考力・判断力・表現力の育成を意識して授業に取り組んでほしい。(学校教育自己診断(生徒)「探求力」の項目 73.7%《H30:72.8%》「論理的思考力・表現力」の項目 68.4%《H30:63.2%》)()

<p style="text-align: center;">2 キャリア教育・人権教育の推進</p>	<p>(2) コアカリキュラムの授業における地域教育資産の開拓を図る。</p> <p>(3) 科学的データ分析による科目選択・進路選択</p>	<p>(2) ア)東淀川人権教育研究会への参加と連携を行う。 イ)地域企業との連携授業を継続して実施する。 ウ)地域ボランティア活動への参加を行う。</p> <p>(3) ア)生徒の資質・能力を科学的に分析し科目選択や進路指導に引き続き活用する。 イ)「産業社会と人間」(ライフプランニング)の授業などを通して自分を知り自分を見つめさせ、自分の将来を考えさせる。</p>	<p>(2) ・学校教育自己診断 「地域とのかかわり」の項目の肯定率 70% (H30 は 63.6%)</p> <p>(3) 学校教育自己診断 ア)・「進路に関する情報提供」の項目の肯定率 80%(H30 は 77.0%) ・進路達成率 98% (H30 : 96.0%) イ)・学校教育自己診断 「自分の生き方を自分で決める力の育成」の項目の肯定率 80% (H30 : 73.2%)</p>	<p>(2) ア) 東人研の人権課題専門委員会として、本校の朝鮮文化研究会が、むくのき学園、須賀の森学園のチョソン子供会の小中学生との交流を行った。自分たちの活動の意義を確認できたようである。先生方は東人研のいずれかの専門委員会に所属し、研究課題を通して、地元小学校、中学校の取り組みとのかかわりを持った。(○)</p> <p>イ)・淀川キリスト教病院 「基礎看護」一日看護師体験、「協働」ピクチャーロードの装飾、「災害を考える」バックヤードの管理施設見学等</p> <p>・菓匠あさだ 「商品開発」和菓子のプロデュース、販売 「ビジュアルデザイン」商品ポスターの制作等</p> <p>ウ)・東淀川支援学校 「家庭園芸」農園での授業交流、</p> <p>・むくのき学園 「教育学」小学校の放課後学習会や体育授業へのヘルパー、「手話」小学校での手話体験交流、</p> <p>・淀川キリスト教病院 多くのクラブ員による早朝協同清掃、</p> <p>・地域のイベントへの参加 ダンス部、吹奏楽部、和太鼓部、軽音楽部、書道部等</p> <p>・地域交流会の企画と運営 共生推進委員会、アミティエ(送る会)など、多くの機会地域とのつながりを作っている。 (学校教育自己診断(生徒)「地域とのかかわり」の項目 67.2%《H30 : 63.6%》)()</p> <p>(3) ア) 進路に関する情報提供が適切に行われている。(学校教育自己診断(生徒)「進路に関する情報提供」の項目 79.4%《H30 : 77.0%》 進路達成率 96.3%)() イ)ライフプランニング等で、自己を見つめて科目や将来を考えている。(学校教育自己診断(生徒)「自分の生き方を自分で決める力の育成」の項目 78.5%《H30 : 73.2%》)()</p>
<p style="text-align: center;">3 安全安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 熟慮して判断し自立ある行動のできる生徒を育成する。</p> <p>(2) 互いの違いを認め合い、尊重し合うことを学ばせる。</p> <p>(3)「ともに学びともに育つ教育」についてさらなる充実を図る。</p> <p>(4)生徒同士が協働して物事に取り組む力を育成する。</p>	<p>(1) 時間管理や学校からの連絡事項などを、自らコントロールできるように指導し、社会人としての基礎を築かせる。</p> <p>(2) 学校開きやクラス開き、HR 合宿などを通して、人はそれぞれ違いがあることを学び、たとえ考え方や価値観が異なってもコミュニケーションができる力を育成する。</p> <p>(3) 自立支援コース生を含めすべての生徒が「ともに学び、ともに育つ」ことの意義を認識し、社会に貢献できる力を育成する。</p> <p>(4) 授業などを通して他者と協働し課題を解決する力を伸ばす。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断 「自分を律する力の育成」の項目肯定率 75% (H30 は 67.3%)</p> <p>(2) 学校教育自己診断 「異なる価値観の人とのコミュニケーション力の育成」の項目肯定率 80% (H30 は 76.3%)</p> <p>(3) 学校教育自己診断 「共生社会に向けての努力」の項目肯定率 90% (H30 は 86.3%)</p> <p>(4) 学校教育自己診断 「他者との協働」の項目肯定率 80% (H30 は 72.9%)</p>	<p>(1) ・教育活動全般、特に科目選択や生徒会活動を通じて「自律」の精神の育成を心掛けて取り組んできたが、教職員の意識と生徒の意識とに乖離がある。(学校教育自己診断(生徒)「自律」の項目 70.6%《H30 : 67.3%》)()</p> <p>(2) ・生徒の意識はある程度力がついたと実感できている。(学校教育自己診断(生徒)「異なる価値観の人とのコミュニケーション力の育成」の項目、75.8%《H30 : 76.3%》)()</p> <p>(3) ・「ともに学び、ともに育つ教育」の意識も定着はしてきているが、やや下がってきている。(学校教育自己診断(生徒)「共生社会に向けての努力」の項目 81.2%《H30 : 86.3%》)()</p> <p>(4) ・協働の授業等で取り組んでおり、生徒の実感として、ある程度捉えられている。(学校教育自己診断(生徒)「他者との協働」の項目 75.2%《H30 : 72.9%》)()</p>

府立柴島高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 ICTを活用した校務の効率化</p>	<p>(1) ICT化をさらに進め、生徒への連絡事項の整理や、教職員間の情報共有を進める。</p> <p>(2) 校務のICT化を進めることで会議の効率化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア) 生徒向け電子掲示板の充実を図る。</p> <p>イ) ホームページやブログ、メールなどで生徒や保護者への連絡事項の徹底や、学校行事などの広報に活用する。</p> <p>(2)</p> <p>ア) 教職員間での連絡事項や周知事項の徹底、意見交換などをICTの活用で進め、会議の効率化に貢献する。</p> <p>イ) 多様な働き方に対応した会議の持ち方等の工夫を図る。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断「Webページの活用等」の項目の肯定率 85% (H30は生徒 64.5% 保護者 84.1%)</p> <p>(2) 職員学校診断アンケート「会議の充実・時間短縮」の項目の肯定率 60% (H30は 50.8%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア) 校内の連絡用掲示モニターでの生徒向けの情報は、行事予定や保健関連の情報は伝えられているが、教室の変更等の連絡も緊急以外はモニターを活用したい。</p> <p>イ) 今年度は、電車の遅延等による校時の変更にも、メールやブログ等を活用した。アンケートフォームを活用した災害時の安否確認のシステムは課題。</p> <p>・(学校教育自己診断「Webページの活用等」生徒 64.1% 《H30: 64.5%》保護者 79.8% 《H30: 84.1%》)()</p> <p>(2)</p> <p>ア) 統合ICTの掲示板やファイル共有リンクを活用</p> <p>イ) 時短勤務で会議に出られない教員等と情報共有を図り、企画運営するためのICT活用も課題</p> <p>・(学校診断アンケート(教職員)「会議の充実・時間短縮」の項目 43.6% 《H30: 50.8%》)()</p>
---	---	---	--	---